

Q. 工事中に通行止めはせず、歩道は2～3m程度確保するということだが、具体的にどの工種でどれだけの幅員をとるのか示してほしい。

A. 場所によって、歩道の幅員に差が出るかもしれないが、作業内容に関わらず2～3mの歩道幅員は確保しながら施工は行っていく。

Q. (重機作業時以外の)騒音振動について。

A. 騒音について、樹木の伐採があるので、チェーンソーの騒音がある。また舗装を取り壊す際に、騒音振動の発生が予想される。また舗装工事においてアスファルトフィニッシャを使う際に、大きくはないが騒音が発生すると考えられる。

Q. ユリノキの伐採について。

A. 坂の部分については、コンクリートのボックスがあるため根が張らず今後30～40年先の安全性を鑑みた場合、高木を植樹するのは難しい。公園等の緑地であれば緑を保全していくという形をとれるが、今回レンガ坂は道路のため、利用者の安全安心の確保を最優先している。そのため伐採という判断をした。

Q. 広場の内外にあるユリノキは伐採するのか。

A. 広場より外のユリノキについては、伐採はない。広場のところについては、専門家診断により生育状態や土壌の状態が悪く、伐採せざるをえないと考えている。広場については、滞留空間を考慮して歩行しやすいように通路幅を大きく取る。

Q. 現状の広場については、子供たちが遊んだり周りのベンチで休憩できたりしている。対して新しい広場の設計では、真ん中に大きな広場ができてしまう。大きなスペースに大きな広場を設けてしまっては歩行者の流れがよくなくなるのではないか。

A. レンガ坂の新しい広場について、広場の脇でも同じように遊べるような設計となっている。現在中央部分は、色々な動線が交錯しているような形状となっているが、新しい設計では、真ん中に滞留できる場を置くことで、通行動線を作り、人の流れを良くする形をとっている。

Q. 設計の広場は、現状の広場よりも狭くなるのではないか。

A. 新しい広場の面積は、現状の広場よりも広がる。また、真ん中に滞留空間を設置しても通行部分は、8m以上の幅員で設計しているため、十分な幅員は確保できていると考えている。

Q. ユリノキは、根が浅く高い木のため、安全性を考えて全て切ったほうがいい。

A. レンガ坂は、「道路」という環境、安全性を重視して設計を行っていることから、伐採する予定である。

Q. 降雪の際の対策は何かないのか。

A. ユリノキの伐採を行うため日当たりはよくなると考えている。

レンガタイルからアスファルトへ変えるため滑りやすさは軽減されると考えている。

降雪の際は、幹線道路を中心に市内の業者により除雪作業を行っている。遊歩道については駅周辺を中心に行っている状況である。

Q. 広場の安全性について、自転車の速度を落とすような工夫はあるのかどうか。

A. 基盤的な整備だけでなく、改修後の運用方法については、市民の方々と協力して改善していくことを検討している。

Q. 桜美林大学の土地と市有地の交換について、現在どうなっているのか。

A. 市と桜美林大学の方で土地交換の手続きを行っており、交換後の土地に図書館を建設する計画だったが、図書館を中央公園内に建設することになったので、以前締結した覚書については、効力がなくなっている状況となっている。現在アカデミーヒルズの土地を市が取得する予定はない。

Q. 30年間大好きなレンガ坂の価値に解決案の価値が達しているとは思えない。30年の歴史に敬意をもって設計してほしい。以前のデザインは公園と道路を一体化するようなデザイン。現在の設計案はレンガ坂の良さが何も残っていない。

A. 今回の計画を立てるにあたって、一番考えたことが既存のレンガ坂を残せるのかどうかという部分、しかしここは特殊な場所で道路でありコンクリートのボックスがすぐ下に埋まっているところ。こういった空間で樹木が並んでいる奇跡的な空間なのは確かだが、この空間を維持できるかということ、やはり道路であるため、安全性という面で非常に厳しい。5～10年であれば大丈夫かもしれないが、30年40年維持できるかということとむずかしいと言わざるを得ない。高木については、やはり伐採という選択をせざるを得ない状況。

Q. 勾配について。2か所ぐらい勾配がきつくなる間隔がある。今回の工事に伴い、少しならだらかにできないか。

A. 上と下が決まっているため平均の勾配を変えることができないが、老朽化ということもあって凸凹しているところがあり、その部分から急になることがある。工事に伴って、その老朽化部分も直すので、極端に急になるところは直す予定。ただ現状の全体の勾配がきついという部分を変えることができないのはご理解いただきたい。

Q. 選定されるヤマボウシについて、どれくらいの高さになるものなのか。

A. ヤマボウシについてだが、管理という面も含めてそれ程大きくはならないもの。四季折々の風景を目線の高さで楽しんでほしい。

Q. 街灯について、どんどん LED 化していつているが、白いと寒々しいため、暖色系等の街灯に変えることができないのか。もしくは、光源が直接目に入らないような街灯のデザインに変えたりできないか。

A. LED は温かみのある色温度を考慮したものに変えている。全体を明るくし、周りの暗がりもなくすようにしている。

Q. 葉っぱで滑る人を多く見る。これはどう考えているのか。

A. 落ち葉で滑るということについては、今回坂部分についてはユリノキの伐採を行う予定なのである程度解消できると考える。

Q. 自転車道ができると自転車優先道路になって、かえって事故が増えるのではないのか。いまよりもっとスピードを出すことは予想できる。今度図書館ができてクロスガーデンとの横断が増えることを考えると、自転車のスピード抑制が全くないのは危険ではないのか。

A. 自転車については、今の段階でもかなりのスピードを出している。子供がふらっとでたりすると非常に危険なため、新しい設計では歩行者道と自転車道を分けている。上りと下り両方向共存させているので、スピードについては両者気を付けると考える。またユリノキがなくなるため、視認性の確保という意味で接触の危険性を軽減できると考える。また図書館やクロスガーデンとの出入り部分は、横断歩道的なものをつくることで注意喚起はできると考える。

Q. 広場の工事は令和4年の8月以降となっているが、実際完全に遊べないようになるのかどうか。子供たちが遊べなくなるのはどのくらいの期間なのか。

A. 通行はできるが、工事範囲は万能鋼板・B型バリケードで囲う形になるので、工事の期間は遊べなくなる。工事期間についても工程通りの2カ月だけというわけにはいかない可能性があることはご承知いただきたい。また工事範囲は、子供たちが入れないように封鎖される形になる。

Q. 設計変更はあるのか。

A. 実施設計が進み、大きな変更は難しいが、軽微な計画の変更の範囲内で頂いた意見が取り入れられるような内容については反映していきたい。また改修後の運用方法等については市民の方々と協力して検討していく。

Q. 2列の並木にして、設計にある公園側の歩道をなくしてほしい。

A. 歩道を2列作る意味については、公園から出た時にいきなり自転車道というのが危ないため、公園との安全性の関係で、歩道を設けている。並木も当初案としてあったが、視認性や構造上の問題、倒木・落枝の問題で設けることが難しい。